

在日朝鮮人女性たちにおける 社会運動の歴史的形成と展開

——「在日韓国民民主女性会大阪本部」の活動を中心に

KIM Minseo

本研究は、1987 年 4 月に結成され、2010 年まで活動した社会運動組織「在日韓国民民主女性会大阪本部」(ヨソンフエ)の主な活動を通して、在日朝鮮人女性の社会運動を学術的に位置づけ、歴史化することを目的として行われた。「在日韓国民民主女性会大阪本部」の機関誌『ポラッピ』および「在日韓国民民主女性会大阪本部」が刊行した文献資料を基にドキュメント分析を行い、主要な活動家との質的インタビュー、聴取調査、関連現場へのフィールドワークも実施した。これにより、「在日韓国民民主女性会大阪本部」における在日朝鮮人女性の社会運動がどのように形成され、展開されていったかを明らかにした。

本研究の主な成果は以下の通りである。まず、在日朝鮮人女性は、帝国主義日本による朝鮮半島植民地支配の結果として日本へ移住し、日本社会における構造的・訓育的・ヘゲモニ的・対人関係的な権力関係による民族差別とジェンダー抑圧の構造の中で形成された歴史的・社会的地位を持つ。このような認識に基づいた社会運動は、日常の経験と闘争を通じて再認識する過程で構成され、意識高揚を通じて特定の立場を志向したものである。

次に、在日朝鮮人女性による社会運動は、解放後、大規模な民族組織の傘下組織の形で始まったが、独自の女性解放の課題を具体化するには至らなかった。高い非識字率と家庭内での従属が、女性たちの集合意識と集団行動の形成を阻害する社会文化的な基盤となっていた。しかし、2、3 世への世代交代が進み、在日朝鮮人社会内部で権利向上運動やマイノリティへの関心が高まる中で、在日朝鮮人女性も社会運動の主体として本格的に登場した。1980 年代には韓国の民主化運動や女性運動が在日朝鮮人女性の意識向上に大きな影響を与え、本研究の対象である「在日韓国民民主女性会大阪本部」もこの流れの中で発足した。

「在日韓国民民主女性会大阪本部」は、民族だけでなくジェンダーの抑圧が交差する在日朝鮮人女性の位置から社会を認識し、女性たちの多層的な経験や日常に基づいた運動を追求した。

1990 年代の日本軍「慰安婦」問題解決運動を通じてさらなる集団行動の形を取り、ジェンダーと民族が交差する地点で起こる問題を、自らの問題であり「今日」の問題として再認識し、さまざまな活動を展開した。これにより、国民国家の地理的な境界を越えたトランスナショナルなフェミニスト運動の可能性を示した。

また、在日朝鮮人女性の立場から在日朝鮮人の権利闘争の必要性を主張し、日本や韓国、在日朝鮮人社会だけでなく、アジアや世界各地での戦時下、紛争下での女性暴力や女性搾取の問題を批判した。このような多方面にわたる活動は、大阪を中心とする関西地域の在日朝鮮人組織や在日朝鮮人女性組織との連帯を通じて、社会運動コミュニティの形成に貢献した。「在日韓国民主女性会大阪本部」は積極的な活動を行う一方で、『ポラッピ』を通じて双方向のコミュニケーションメディアを活用し、在日朝鮮人女性たちの語り合いの場を築いた。

本研究は「在日韓国民主女性会大阪本部」の活動を歴史化する作業を通じて、これまで不可視化されていた関西地域の在日朝鮮人女性の社会運動を発掘し、具体的な時空間に位置づけた。従来の在日朝鮮人社会運動研究の男性中心性に挑戦し、日本軍「慰安婦」問題解決運動研究で周縁化されていた主体としての在日朝鮮人女性に注目した。しかし、資料収集の限界から実際に活動していた女性たちの多角的な声を総合的に捉えることができなかった点や、マクロな社会構造の歴史的変動を説明する中で経済的側面に関わる分析が相対的に不十分であった点は、今後の研究でより繊細に補完されるべき課題である。本研究は、在日朝鮮人女性たちの運動を歴史的差異性と文脈に基づいて体系的に分析しようとする一つの試みとして受け入れられることを期待する。